

# 平成28年度 学校経営計画



広島県尾道南高等学校

校番	199	学校名	広島県尾道南高等学校	校長氏名	高坂 学	定時制	本校
----	-----	-----	------------	------	------	-----	----

1 ミッション(地域社会における自校の使命)

<p>尾道市立の唯一の夜間定時制高校として「明明徳」の建学精神を継承し、職場と学校の両立を支援することを通して、社会の中で自立し自分らしい生き方を実現していくために必要な能力や態度、豊かな人間性を身に付けた人材を育成する。</p> <p>【育てたい人間像】</p> <p>(1)人とふれ合い社会につながることに喜びや希望、自信が持てる生徒</p> <p>(2)進んで人と交わり、その中で自己の役割を認め、理解し信頼し合える人間関係を築いていける生徒</p> <p>(3)生活基盤に職業(労働)と教育(学び)を据え、社会の中で自己を生かす力(将来設計能力)を伸ばしていける生徒</p>
---

2 ビジョン(使命の追求を通じて実現しようとする自校の将来像)

<p>教育的な支援の観点に立ち、統一的・組織的な指導と個別・具体の支援を行い、教育効果を高める。</p> <p>(1) 学びの変革を推進し、生徒の多様な実態に対応しながら、基礎的・基本的な知識や技能を育成するとともに、生徒が主体的に活動しあい、思考力・判断力・表現力を高めることができる学校。</p> <p>(2) キャリア教育を充実させ、一人一人の社会的・職業的な自立に向けて、社会人として必要な能力・技能や態度を育てる学校。</p> <p>(3) 危機管理を徹底し、生徒に自己肯定感を持たせるとともに、自己教育力、豊かな人間性を育て、安心して学べる学校。</p> <p>(4) 開かれた学校づくりを進め、家庭や保護者と課題を共有し、地域や関係機関の協力を得て、生徒の可能性を伸ばすための教育活動を共に行う学校。</p>
---

3 環境分析

(1)SWOT分析

<p>外部環境分析</p> <p>内部環境分析</p>	<p>機会(Opportunity)</p> <p>○支援・キャリア教育面における関係機関、地域のエキスパート等と連携がとれる。</p> <p>○就労における関係機関、起業者や経営者とのつながりを構築しつつある。</p> <p>○地元中学校からの評価が高まっている。</p> <p>○本校の教育実践が注目されている。</p>	<p>脅威(Threat)</p> <p>○夜間定時制高校教育の現状や課題に対する理解が得られにくい。</p> <p>○地域の、本校に対する理解が十分得られてはいない。</p> <p>○正規雇用求人が少ない。</p> <p>○就労希望があっても受入先が少ない。</p>
	<p>強み(Strength)</p> <p>○生徒の多くが就労しており、職業意識が強く、社会の厳しさを認識している。</p> <p>○小規模校で意識統一が確立し、機動力があり、迅速、柔軟、個別の対応ができる。</p> <p>○市立の夜間定時制の単独校であり、教育内容の独自性・特色を出しやすい。</p> <p>○特別支援、生徒指導、就労支援等のノウハウが確立している。</p> <p>○学校行事や体験的活動を重視している。</p> <p>○地元の生徒が多く、職員と親密である。</p> <p>○学年制が統一感を生んでいる。</p> <p>○まっすぐな生徒が学び合っており、優れた個性や感性が見出だせる。</p> <p>○還元事業としての特設講座が好評である。</p>	<p>強みを積極的にチャンスに生かすために</p> <p>○個別の支援計画による指導の推進</p> <p>ア アセスメント票の活用</p> <p>イ 保護者との課題の共有</p> <p>ウ 生徒理解支援会議・ケース会議の機能化、組織の機動性アップ</p> <p>○教育的な支援を核とした、見通しの持てる授業への改善、組織的な授業研究の継続</p> <p>ア 視覚・聴覚の効果的な活用</p> <p>イ 指示の明確化、学習活動のユニット化</p> <p>ウ 学習内容のレベルアップ</p> <p>○組織的な改善・改革の姿勢、前年踏襲型からの脱却</p> <p>ア 行事評価・改善シートによる検証</p> <p>イ 各種研修報告会の実施</p> <p>ウ 特設講座への生徒の参加体制の確立</p>
<p>弱み(Weakness)</p> <p>○設置基準に沿った施設・設備(定員数を収容する普通教室・特別教室等)が不足する。</p> <p>○施設が同一敷地内でない。</p> <p>○施設・設備の問題や多様な生徒実態に対応するために教科担当時間数が増加し、生徒指導やガイダンス等に支障が出やすい。</p> <p>○市教委に高校担当者がいない。</p> <p>○部活動や地域連携等に制約がある。</p> <p>○体験学習・行事が形骸化する怖れがある。</p> <p>○教職員の生徒理解・支援をさらに高める必要がある。</p>	<p>チャンスを生かして弱みを改善するために</p> <p>○尾道市教育委員会や関係機関との連携</p> <p>ア 敷地も含めた本校の将来構想の策定</p> <p>イ 専門機関等との連携</p> <p>○教職員の生徒への関わり方の質的向上</p> <p>ア 常勤の特別支援教育支援員の配置</p> <p>イ ケア会議やケーススタディの推進</p> <p>ウ キャリアカウンセリング研修の実施</p> <p>○職業教育の機会や場の拡大等</p> <p>ア 学習・行事等の意義・目的の再構築</p> <p>イ 職業体験、ジョブシャドウイングの拡充</p> <p>ウ 職業科目(学校設定科目)の創設</p>	<p>弱みと脅威で最悪状況に陥らないために</p> <p>○尾道市教育委員会との連携</p> <p>ア 本校のミッション・ビジョンの見直し</p> <p>イ 支援体制充実のための人的資源の導入</p> <p>○教育的な支援についての共通理解</p> <p>○組織マネジメントの機能化と業務改善</p> <p>○教職員間の円滑なコミュニケーション構築</p> <p>○生徒理解支援会議・ケース会議の慣例化(生徒の状況、取組の成果や課題等を常に共有できる体制づくり)</p> <p>○不祥事防止等の職員研修の充実</p>

## (2) 生徒の状況

## ア 高校入試の状況(4月1日現在)

年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
志願者数	43名	41名	26名	26名	29名	25名	20名
最終志願倍率	1.08	1.02	0.65	0.65	0.75	0.65	0.50

## イ 在籍生徒の状況(4月1日現在)

年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
1学年	55名	56名	39名	35名	37名	28名	32名
2学年	38名	38名	43名	31名	24名	29名	19名
3学年	22名	30名	29名	34名	26名	22名	25名
4学年	17名	17名	27名	27名	30名	20名	19名
合計	132名	141名	138名	127名	117名	99名	95名

## ウ 休学者・中途退学者の状況

## 【休学者】

年度	平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度
	4月初	～3月	4月初	～3月	4月初	～3月	4月初	～3月	4月初	～3月	4月初	～3月	4月初
1学年	7名	15名	4名	8名	7名	5名	4名	5名	5名	5名	3名	6名	7名
2学年	4名	6名	4名	4名	5名	3名	4名	3名	1名	5名	0名	5名	4名
3学年	4名	1名	1名	2名	2名	1名	1名	5名	3名	1名	3名	0名	1名
4学年	2名	0名	0名	0名	1名	2名	0名	2名	1名	0名	1名	1名	0名
計	17名	22名	9名	14名	15名	11名	9名	15名	10名	11名	7名	12名	12名
合計	39名		23名		26名		24名		21名		19名		※名

## 【中途退学者】

年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
第1学年	8名	9名	8(3)名	7(5)名	5(3)名	5(2)名	3(0)名
第2学年	5名	6名	4(4)名	4(2)名	5(3)名	3(1)名	2(0)名
第3学年	2名	1名	2(1)名	2(1)名	1(1)名	3(2)名	1(1)名
第4学年	0名	1名	0(0)名	1(1)名	0(0)名	1(0)名	1(1)名
合計	15名	17名	14(8)名	14(9)名	11(7)名	12(4)名	7(2)名

※( ):年度当初の休学者のうち中途退学した者の数(内数)

## エ 進路状況(3月31日現在)

年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
就職	1名	3名	5名	7名	6名	13名	9名
進学	2名	7名	1名	2名	2名	0名	2名
一時的就労	5名	2名	5名	10名	6名	8名	6名
就職支援制度	0名	0名	0名	2名	1名	2名	1名
社会福祉制度利用	0名	0名	0名	0名	2名	2名	0名
その他	0名	1名	4名	2名	1名	1名	0名
未定	2名	2名	1名	1名	7名	2名	0名
合計	10名	15名	16名	24名	25名	28名	18名

4 目標の設定

学校経営目標						
達成目標	評価指標	実績値	目標値			担当部等
		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	
1 学びの変革を推進し、生徒の多様な実態に対応しながら、基礎的・基本的な知識や技能を育成するとともに、生徒が主体的に活動しあい、思考力・判断力・表現力を高めることができる。						
生徒が見通しを持って主体的に学習しようとする意欲や態度を育てる授業を行う。	生徒の授業満足度	73%	72%	73%	73%以上	教務部
体験学習を通して、他者と協働的に取り組む態度を育てるとともに、自己理解を深めさせる。	体験学習の肯定的評価	新規	67%	70%	70%以上	教務部
個別の合理的配慮を考慮し、生徒の共通理解に努め、組織的・統一的に支援の充実を図る。	(1)自己管理能力の評価(生徒・教職員) (2)合理的配慮が必要な生徒の家庭・関係機関との連携回数	(1)81% (2)新規	(1)75% (2)9回	(1)80% (2)10回	(1)85% (2)11回	教育支援
2 キャリア教育を充実させ、一人一人の社会的・職業的な自立に向けて、社会人として必要な能力・技能や態度を育てる。						
自己理解・他者理解を深め、自己肯定感の高揚を図る。	キャリア関係ワークシート 生活体験文の記録の中から生徒の成長を確認する。	3回	3回	4回	5回	進路指導部
社会的・職業的自立を達成するための進路・職業選択、自己決定に関わる諸能力の形成を目指す。	インターンシップ・ジョブチャレンジ・ジョブシャドウイング・キャリアガイダンスの実施回数	3回	3回	4回	4回	進路指導部
3 危機管理を徹底し、生徒に自己肯定感を持たせるとともに、自己教育力、豊かな人間性を育て、安心して学べる。						
集団や社会の一員としての自己実現を達成するために、指導方針を明確にすると共に、ルールを明示し、生徒一人一人への理解と支援のための取組を講ずる。	休学者(復学者含む)及び中途退学者数の在籍生徒数に対する割合	21%	20%	20%以下	20%未満	生徒指導部
生徒会活動や地域貢献活動等を通して、仲間と共にパフォーマンスを高め合おうとする態度を育て、社会人としてのスキルアップを図る。	生徒会行事等への参加率	68%	70%	70%	70%	生徒指導部(生徒会企画運営)
自他の命や人権を尊重するとともに、学校安全体制の整備を推進する。	学校生活改善アンケート「安心安全度」	新規	80%	83%	85%	生徒指導部(保健・健康指導)
4 開かれた学校づくりを進め、家庭や保護者と課題を共有し、地域や関係機関の協力を得て、生徒の可能性を伸ばすための教育活動を共に行う。						
家庭、地域、関係機関に向けて学校情報を発信する。	ホームページの更新回数	15回	24回	27回	30回	教頭 教務部(広報)
家庭、地域、関係機関との連携を深め、生徒の自立心を育成する。	公開研究授業やキャリア教育研修会、米作り体験などの研修会や行事の実施回数	新規	6回	7回	8回	全分掌

5 行動計画

学校経営目標			
達成目標	本年度行動計画	中期行動計画	担当部等
1 学びの変革を推進し、生徒の多様な実態に対応しながら、基礎的・基本的な知識や技能を育成するとともに、生徒が主体的に活動しあい、思考力・判断力・表現力を高めることができる。			
生徒が見通しを持って主体的に学習しようとする意欲や態度を育てる授業を行う。	(1) 授業のユニバーサルデザイン化を図り、達成感、充実感の味わえる教材や授業づくりを行う。 (2) 構造化を図り、学習環境を整備する。 (3) 特別支援教育支援員、教科アシスタントとの連携、支援のあり方について工夫する。 (4) 校内及び公開授業研究会を実施する。 (5) 振り返りシートによる授業評価を実施し、成果や課題を共有する。	(1) 生徒全員の学習実態を把握する。 (2) 授業における合理的配慮を考える視点について研究する。 (3) 集団指導と個別指導のあり方について工夫する。 (4) 授業を支える環境について見直しを行う。 (5) 特別支援教育支援員、教科アシスタントとの連携、支援のあり方について工夫する。 (6) 振り返りシートによる授業評価と分析方法について研究し、生徒の課題や気づき及び取組みの成果や課題を共有できる場を設ける。	教務部
体験学習を通して、他者と協働的に取組む態度を育てるとともに、自己理解を深めさせる。	(1) 体験学習の目標や意義を生徒に明確に伝える。 (2) 協働的な活動に取組む中で、ソーシャルスキル、コミュニケーションスキル等を育てる。 (3) 体験文としてまとめ、振り返りを行う。	(1) 各教科や特別活動の学習と総合的な学習の時間における学習との関連性について整理する。 (2) 体験学習及びその振り返りの活動を計画し、自己の役割認識、成就感、自己存在感を醸成する	教務部
個別の合理的配慮を考慮し、生徒の共通理解に努め、組織的・統一的に支援の充実を図る。	(1) 家庭・関係機関との連携を深め、生徒理解に努める。 (2) 授業におけるナチュラルサポート(基礎的環境整備)や言語活動における思考のツールを組織的に行う。	(1) 家庭訪問・関係機関との連携で得た支援の状況や課題をケース会議や特別支援推進会議・教職員研修会で共有する。 (2) 合理的配慮(授業におけるナチュラルサポート)の深化に向け、資料を作成し会議で提案する。	教育支援
2 キャリア教育を充実させ、一人一人の社会的・職業的な自立に向けて、社会人として必要な能力・技能や態度を育てる。			
自己理解・他者理解を深め、自己肯定感の高揚を図る。	(1) 集団における学習を通して、様々な物の見方や考え方に触れ、ありのままの自分を受け入れ(自己受容)、自己肯定感を高める取り組みを行う。 (2) 自分の考えをまとめ、自分の言葉で工夫して表現しようとする主体的な態度・意欲・積極性を身に付けさせる。	(1) 学校生活改善シート・キャリアノートを実施することで、自己を振り返り、課題を明らかにし、全教職員で生徒理解に努める。 (2) 生活体験文の取り組みに向け、個別の支援を考慮した指導の在り方を検討し、実施する。	進路指導部
社会的・職業的自立を達成するための進路・職業選択、自己決定に関わる諸能力の形成を目指す。	(1) 家庭訪問・地域の企業訪問・職業安定所・就労支援関係事業所・生徒の職場との連携を深める。 (2) 社会参加を基盤として、自らの人生と将来を展望し、社会的・職業的自立を達成するための進路・職業選択、自己決定に関わる諸能力の形成を目指す。	(1) 職業安定所、関係事業所との連携を積極的に図り、企業訪問を行い生徒個々の進路開拓を図る。 (2) ジョブシャドウイング・ジョブチャレンジ・インターンシップの事業所との連携を図り、多様な社会参加の在り方を模索する。	進路指導部
3 危機管理を徹底し、生徒に自己肯定感を持たせるとともに、自己教育力、豊かな人間性を育て、安心して学べる。			
集団や社会の一員としての自己実現を達成するために、指導方針を明確にすると共に、ルールを明示し、生徒一人一人への理解と支援のための取組を講ずる。	(1) ルール・マナーを常に掲示し、全教職員が同一步調で指導する体制を構築する。 (2) 校内巡回(授業開始10分間の巡視等)や登下校時の校外巡回等継続的に実施する。 (3) 日常的な教育的配慮による声かけを行う。 (4) 生徒全員の課題を全教職員で共有し、協力連携して指導に当たる体制を確立する。	(1) 生徒に関わる組織的な情報交換と適切な指導により、生徒にルール遵守の態度を育て、安定した学校生活を送らせる。 (2) 生徒一人一人の課題解決に向け、家庭との綿密な連携を行い、生徒・保護者との信頼関係を深める。	生徒指導部

<p>生徒会活動や地域貢献活動等を通して、仲間と共にパフォーマンスを高め合おうとする態度を育て、社会人としてのスキルアップを図る。</p>	<p>生徒会の伝統を継承するだけでなく生徒会活動への新しいアイデアや発想の導入を奨励し、その活性化を図ると共に連帯意識を高める。  (1)生徒が主体的・自発的に各種生徒会行事の企画・運営等を行うことを通して、主体性やリーダーシップを養わせる。  (2)生徒会を中心とした地域貢献活動に取り組みませ、社会人としての責任を認識させる。</p>	<p>自主性と創意にあふれた生徒会活動が展開し、仲間を重んじる土壌を育てる。  (1)行事の企画・運営を通して、仲間とつながろうとする姿勢を育てる。  (2)行事の企画・運営や部活動等を通して、地域につながり社会に貢献しようとする姿勢を育てる。</p>	<p>生徒指導部  (生徒会企画運営)</p>
<p>自他の命や人権を尊重するとともに、学校安全体制の整備を推進する。</p>	<p>生徒一人一人の特性を認め合い、自己肯定感を得られる授業作り、集団作り、学校作りを学校全体で行っていく。  (1)いじめ防止委員会を中心とした学校安全体制を機能化させる。  (2)各教科・HR活動等で人権教育を推進していく。</p>	<p>(1)いじめ防止委員会等を機能させる。  ・定期的に会議を開催し、実態把握と課題解決に積極的に取り組む。  ・生徒・保護者との信頼関係を構築する。  (2)各教科・HR活動等で人権教育を行う。</p>	<p>生徒指導部  (保健・健康指導)</p>
<p>4 開かれた学校づくりを進め、家庭や保護者と課題を共有し、地域や関係機関の協力を得て、生徒の可能性を伸ばすための教育活動を共に行う。</p>			
<p>家庭、地域、関係機関に向けて学校情報を発信する。</p>	<p>(1)リアルタイムの更新に努め、学校情報を的確に発信し、家庭、地域、関係機関からの理解を得る。  (2)複数のホームページ担当者の育成に努める。  (3)簡潔明瞭で容易に理解できるホームページを作成する。</p>	<p>(1)ホームページに掲載する内容を、全職員が考え、作成する。  (2)学校PRを組織的に考える。  (3)既存のホームページに改良・修正の余地がないかを点検する。</p>	<p>教頭  教務部  (広報)</p>
<p>家庭、地域、関係機関との連携を深め、生徒の自立心を育成する。</p>	<p>(1)家庭、地域、関係機関との連携を積極的に行う。  (2)生徒が考えた連携の内容を実現する。  (3)学校行事の改善や見直しを組織的に行い、生徒が主体となった学校行事を確立する。</p>	<p>(1)家庭、地域、関係機関との連携の在り方を考える。  (2)生徒に連携の内容を考えさせる。  (3)学校行事の活性化を図る。</p>	<p>全分掌</p>